

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172000259		
法人名	三愛商事株式会社		
事業所名	グループホーム里の家(すずらん)		
所在地	北海道小樽市桂岡11-13		
自己評価作成日	平成26年12月10日	評価結果市町村受理日	平成27年2月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所では、愛のある暮らしの中で、楽しく生涯を送れることを願いとし、信じ合える希望ある福祉を創造し、社会に貢献していくことをモットーにしています。具体的には、ご自宅での生活状況が、入居しても延長したものとなるよう配慮しながらご自宅に近い環境となるよう努め、支援させて頂いています。馴染みのある家具や道具に囲まれながらの食事作り、畑仕事、地域の交流などで、生活のリズムを通して、忘れていた昔の自分を取り戻し、穏やかに日常が過ごせるよう支援に努めております。また、職員一人ひとりが、入居者様と生活を共にしていることを常に意識し、ゆっくりと関わりをもち、落ち着いた環境でコミュニケーションを図っております。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=tr&amp;JigyosyoCd=0172000259-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=tr&amp;JigyosyoCd=0172000259-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西7丁目1番あおいビル7階
訪問調査日	平成 27 年 1 月 19 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームの秀でている点は、まず第一に職員一人ひとりのスキルの高さが上げられます。職員は経験豊かな管理者やリーダーが行っている利用者への寄り添いのサービスを身に着けつつ、静かで落ち着いた雰囲気の中で継続した支援が行われています。本社からの支援も、現場を信頼し尊重しながら適切なアドバイスがされています。内部研修も年間計画に基づき初任者向けの内容、中堅職員向けの内容など段階的にしっかりとスキルが得られています。第二に地域、特に近所とのお付き合いの深さが上げられます。婦人の方々の井戸端会議にも加わってのお付き合い、また、近くの神社では神主や氏子の方々の深い理解のもと、恒例の初詣をはじめ境内でのイベントに招かれるなどしています。更に災害対策では町内会の中に設置された「里の家係」が災害時の支援をしっかりと受け持ってくれるなど、近所との絆の強さが特筆に値します。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します					
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝の申し送り時に理念の唱和を行い、意識を高めている。 入居者様やホームが地域に愛され馴染みのある生活を送れる事が実感できる様、実践している。	利用者が安心して暮らす「家」作りを強く意識した地域密着型の理念を、毎朝、3ユニット合同で行われる申し送りで改めて確認をしながら、意識を新たに実践に励んでいます。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会のお祭りや文化祭、小学校の各種行事に参加したり、子供達が学習の一環としてホームに来られている。又、ホームのお祭りにも沢山の地域の方々が参加される。 高等聾学校からの就業実習も受け入れている。	地域の深い理解を得て、町内会の祭りや運動会、文化祭などに参加をしながら地域の一員としての交流が継続されています。近隣小学校の児童の学習に寄与するほか高等聾学校の実習も受け入れています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域に出た時に、認知症についての質問に答えるようにしている。 小学校の訪問交流により、認知症の方の理解にも繋がっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催をしており、各関係者様（地域包括、民生委員、消防、ご家族、地域住民等）との話し合いも円滑で実りあるものとなってきている。 又、お便りに会議の要約を付ける事で、ホームの役割や取組について理解頂き、意見も頂いている。	メンバーを構成する関係者の中で家族の出席が多い会議が開催されています。市の担当者、地域包括支援センター、町内会、民生委員、消防署などの関係者による活発な意見交換が行われており、議事録に具体的に記録されています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	保護課の方とも受診等密に連絡を取っている。 新入居者様の生活歴等も詳しく引き継いで頂き、ケアに活かしている。 関係各所に里の家便りをお届けし、取り組みをお伝えしている。	市の担当者(保険課及び介護保護課)とは綿密な連携が行われており、特にホームの利用受け入れに際しては受診記録のほか生活歴など細やかな情報の提供を受け、ホームでの暮らしの継続に役立てています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に勉強会を行い、意識を高めている。 又、日頃からユニット内で話し合いの機会を持っている。防犯上、施錠はしているが、施錠は感じない様に取り組んでいる。歩行困難により、居室に布団を敷いておられる方もいるが鈴等の活用により自由に動ける感覚でいられる様に努めている。	職場内研修のカリキュラムには、年間を通して幾度かの「身体拘束及び虐待の防止」をテーマとし、職員への周知徹底がされ実践されています。また、些細な事案でも職員同士で忌憚なく話し合う雰囲気作りが出来上がっています	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフ同士で注意し合える関係を築いており、小さな身体変化も見逃さないようにしている。内部研修にて虐待について学んでいる。又、グレーゾーンになるのではないかとと思われる事は気付き次第スタッフ同士で話し合い、虐待防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	スタッフは講習を受けており、家族様に説明できるようにしているが、現在、該当する入居者様はおられない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居する前の面談を含め、十分に説明の時間を取っている。 改定の際は書面での説明を郵送し、電話にて細かな説明をさせて頂き、ご理解納得して頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	小さな訴えや不満等にも耳を傾ける姿勢をとっており、明らかに苦情と思われる事は速やかに所定書式にて管理者及び本部に提出し、迅速丁寧な解決に取り組んでいる。 ホーム内にポスターを掲示している。	管理者及び職員すべてが、日々の寄り添うケアの中から利用者の意見や要望さらには思いをキャッチしながら、ユニット会議などで共有を図り運営の反映に努めています。また、来訪する家族にはホームの暮らしを実際に見ていただき意見や要望の把握に努めています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月2回のユニット会議・月1回の合同会議で直接会社で意見を述べる機会がある。 スタッフのお花見、忘年会には本社職員も参加し、職員が直接意見を伝える事が出来ている。	月2回のユニット合同会議及び月1回本社で開催の管理者、計画作成者など幹部職員が出席する合同会議で、各ユニットでの職員の意見が提案されるなど運営に反映し、より良いホーム運営に資するよう図られています。本社の担当職員は管理者、職員と温かな関係を保持しながら意見の把握に努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務希望や研修が自由に出来る様に整備されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修に参加する機会は沢山あり、参加した職員は内容を報告する義務がある。月に一度、本社職員による内部研修に参加し、毎月ケース検討や自己評価に関する研修を行い、トレーニングに努めている。 年初めにスタッフの個人目標を掲げ適時評価し、達成度を確認している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	実践者研修の受け入れを行っている。又、地域の同業者との親睦会にも参加し、ネットワーク作りをしている。小樽市内のGHの相互訪問を実施している。 系列のホームの見学も行っている。 その他、随時見学の受け入れを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	管理者や計画作成担当者が面談を行ない、移行がスムーズに行える様話し合っている。 入居後、入居者様が落ち着いてお話できる様になった頃にはゆっくり耳を傾ける時間を持つように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者や計画作成担当者が面談を時間を掛けて行ない、移行がスムーズに行える様話し合っている。 ご家族やご本人の細かな希望等も伺い、ホームでの生活が円滑に継続出来る様に努めている。 ご家族と入居者様の関係が良好に継続できるように協力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者や計画作成担当者が面談を行ない、移行がスムーズに行える様話し合っていると共に家族様にご理解を頂き、ゆっくり時間をかけて慣れていただいている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に仕事をしたり、行事等を楽しんだり、談笑する時間を作っている。 又、入居者様に生活の知恵を伺い、実践する場も設けている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様と協力をしてご本人様を支える為に職員が出来る事をさせて頂く、という考え方でご家族と話し合っている。職員とご家族様との関係が良いのが特徴である。ご家族様が行事にも参加されご本人の介助（車椅子、食事）をしながら笑顔される姿が見られている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所へ行ったり、友人と会うなど希望に応じる様にしている。時には記憶のあいまいな部分をご家族様に尋ねる等、連絡をしている。 地域の行事に参加して頂き、馴染みの方々と昔話を出来る時間を持つ様、支援している。	毎月、来訪のボランティア及び知人とは馴染みの間柄となっており、職員は大切にしています。また、近くの神社での初詣や境内でのイベントには、神主、氏子の方々の協力を得て、毎年楽しい一時を過ごしており、これらの関係継続を大切にしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲よし同士でお話しをされたり、仕事をしたりする空間は確保されている。認知能力やADLの違いが原因で寂しい思いをしない様、何を仰っても何をされても職員が普通の事として接し、その方の長所や頑張っている事等を話し、尊敬していることを示す事で皆様仲間として認め合い暮らしておられる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族様とは友人のような親密な関係が続いている。 ご家族様が里の家祭りにも参加され退居後のお話を伺い、相談を受ける事もある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様やご家族様の言葉や行動・表情等、職員間で常に情報交換し新しいニーズの発見に努めている。入居者様本位の生活をして頂く事を頭に置く様常に話し合い、実践している。	利用者と寄り添う日常の会話を通して思いや意向の把握に努めています。意思の疎通が困難な場合は家族からの情報を参考にし、利用者本位を常として検討しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	昔の話しを沢山聞く時間を設けている。ご家族様が気軽に話せる人間関係を作り、沢山の情報を頂くようにしている。又、把握の難しい方に関しては入居前の担当ワーカーより情報を頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	見守りを大切に、一日の生活のリズムや身体状況等を把握する事に力を入れている。入居者様とお話しする事で表情による心の状態の把握に努めている。さらに、新しい事にも挑戦していただいている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・ご家族様の意向を介護計画に取り入れる為、ご家族様と一緒にプランを考える機会を持ったり、職員が代弁者となって入居者様が「何をしたいのか」を考えプランに生かしている。今迄通りに見えても少しずつ変化がある事に注目している。主治医の意見も参考にしている。	本人及び家族が望むケアサービスが把握されて、日常のモニタリング及びケース記録に反映されています。プランの見直しが必要の場合も、家族に報告し意見を得ながら作られ、職員の情報周知と相まってのケアが実践されています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	勤務交代の申し送りには時間をかけ、記録に目を通す事になっている。毎日一人一人に対して目標を設定して、計画が実践されているか記録している。会話の中で気づき疑問に感じたこと等を記録し、プランの見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族様や入居者様のニーズ（主に身体の変化）に対応している。 本人様希望の買い物の個人対応にも柔軟に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	避難訓練等に地域や消防の協働を頂いたり、交番とも交流を図っている。 日舞、ハーモニカ、フラダンス等地域のボランティアの協力で心身共に楽しんでいる。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医の他に家族様や本人の希望で受診を行っている。 提携医院とは24時間電話対応出来、必要に応じて看護師が来設している。入院対応についても主治医と連携し、スムーズに行っている。	利用者と家族が希望する従来のかかりつけ医への受診は、出来るだけ継続できるよう支援が行われています。ホームの主治医は熱心に利用者を見ており家族の信頼を得ています。提携医院の主治医との連携も行われています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	提携医療機関の看護職員と随時連絡可能となっており、適切な受診や看護につなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族様同行で医師との面談の機会を持ち、意向を伝えている。入院時は面会にも訪れて、その都度情報を得て早期に退院出来る様努めている。なるべく早く退院して通院で対応する等考慮している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	以前の終末期ケアでは良い結果となったこともあり希望があれば対応する準備は出来ている事は伝えていく。しかし、最終的にはご本人・ご家族様・主治医との話し合いで決める事である為、その決定に従い全面的に支援する心構えを確認し合っている。	終末期を迎え、本人、家族、主治医の度重なる話し合いでターミナルケアの是非を含めた対応を決めています。ホームではそれらの決定に対応しており、これまでホームでの看取りも多くの例を数えています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時に備え、応急手当等の訓練を定期的に行っている。 転倒事故やヒヤリハットが起こった際、応急手当や初期対応について話し合っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署参加の消防訓練を行い、指導していただいている。地域の協力体制も整えている。毎月スタッフのみでシュミレーションを行い、半年に一度、防災訓練も行い、より迅速な避難をする研修も行っている。	消防署の協力を得て、年2回の避難訓練を行い、臨場での問題分析、改善が行われています。また、各種のシュミレーションによる自主訓練も度々行いながら災害対策への対応に努めています。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーや人格を尊重した対応に心がけ、職員同士が注意し合い実践している。ホーム内では勿論だが、外に出ても充分気をつける様話し合っている。研修も行い、初心に戻れる様にしている、	ベテランの職員が多い当ホームでは、利用者を大切にしたり添いの声かけ、会話が、温かな雰囲気を作り出しています。	一部のユニットでは素通しのガラス部分にカーテンが施されていますが、ドアを閉めても廊下から室内の様子が見えてしまうこともあるので、プライバシーの観点から改善への取り組みが期待されます。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の全ての場面で選択や決定を自由に出来る様支援している。意見を押し付ける様な事は職員は勿論、入居者様にもない様に見守っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は自分たちの都合ではなく、利用者様の都合で動くことを徹底している。入居者様も自由に生活する事が当たり前と思って頂けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	プライドに配慮しながら整容や着替え等の支援を行っている。馴染みの訪問理美容院で毎月希望に合わせたカットや毛染め、パーマをしている。又、お気に入りの衣装を着られた方にはお声を掛ける様にしている。お化粧も自由にされている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューや買い物等を協力して頂いたり下ごしらえの段階でお手伝いして頂いている。一部の利用者様に限られているが、食器洗い、食器拭きも手伝って頂いている。研修も行い、他ホームの支援を参考に楽しんで頂ける様努めている。	献立、食材の調達など一部主食を除きすべて職員が行っています。各ユニット毎で工夫された食事は、利用者の満足な笑顔を生み出しています。本社では毎日の食事を写真で点検して、職員の努力を褒賞するなどしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量に個人差があるので、個別の対応をしている。おやつ等を利用し、不足分を補えるようにしている。その他、水分摂取しやすい様な声掛け、環境づくりや摂取しやすい形（ゼリー、甘み等）にする等気を付けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛けや支援にて毎食後行っている。変化があった場合、歯科医の訪問診療を受けている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	失敗で傷ついたり、回数が多いことを気にしない様に排泄が良い事で、嬉しい事だと利用者様に思ってもらっている。表情や排泄パターンを読み取ってトイレ誘導し、自立に向けた支援を行っている。	衣服を汚した場合でも、本人が落ち込まないように逆に元気付ける手法でトイレでの自立した排泄への支援が行われており、改善例を増やしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事と水分補給の他、毎日体操をしたり、ドライブ等行なっている。主治医との連携を密にし、下剤の調整も行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人様の希望やタイミングを考慮して行っている。体調を見ながら希望に添った入浴をできるようにしている。リラックスタイムと考え、ゆったりした気分になって頂いている。	ホームでは週4回の入浴設定をしながら、利用者の入浴を勧めています。体調や拒む場合もあり日を変えるなどしながら週2回は入浴でリフレッシュされるよう支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の休息は個人個人の自由で取れるようになっていく。時間を決めず、個人のリズムに合わせた睡眠を取れる様に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師による居宅療養管理指導もあり、薬についての情報がいつでも見られる様になっており、従来の服薬部分は把握している。新処方薬については職員全員で申し送りを行い確認合っている。又、バイタル表も活用し症状の変化を医師に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お手伝いや役に立っていると思う事に喜びを感じて下さる方には、感謝しながら頼りにしている事をお伝えしている。外出・買い物がお好きな方が多いので機会を多くしている。歌番組がお好きな方も多くDVD鑑賞を取り入れている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出がお好きな利用者様は毎日でも出掛けられる様支援している。又、利用者様の希望を伺い、可能な限りドライブにも出掛けている。受診の帰りや希望時には買い物の支援をしている。研修も行い、他ホームでの支援も参考にしている。	以前に住んでいた住居の訪問、近所の知人と会う喜び、喫茶店での寛ぎ、たまには公園での食事会、ドライブで少し遠出の外出、買い物などできるだけ利用者の希望に添いながらストレスの解消に努めて笑顔の創出に努めています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人様のご希望があれば、ご家族様と話し合い所持する事をご家族様に承認して頂いている。買い物時にレジで支払って頂く機会を作っている。自販機での買い物も支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はどなたも自由に掛けられる様支援している。手紙は一部の方が実行されている。スタッフがご家族様に電話する際はご本人にもお話がないか伺う様にしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	見守りながら混乱や不快感がないよう、支援している。入居者様の希望も取り入れている。入居者様皆様の写真や里の家便りをホールに掲示し、季節感や生活感を感じて頂ける様にしている。研修も行い、さらに居心地が良くなる様に努めている。	利用者が集う居間では各ユニットで多少の差はあるものの、それぞれの職員の寄り添いのサポートにより、家庭的な雰囲気の中、利用者の安心の暮らしを見ることが出来ます。一部の居間では、畳の小上がり部分がステージに早代わりしてボランティアによるフラダンス、ハーモニカ演奏、日本舞踊など行われ利用者を楽しませてくれます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	椅子を多めに配置している。2階と1階に共有スペースがあるので、良い状態を保っている。日中は多くの入居者様がホールにいらっしゃる事が多く、本人様の居場所であると感じて頂いている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様のご協力を頂いて、家具や写真を用意している。利用者様のお好きな飾り物や家具も追加している。居室の模様替え等、ご家族に協力して行っている。	家族の協力により収納庫の部分を改造して好きな書物がぎっしりと収納され、新聞の切抜きを大切にしている利用者の居室、家族の写真や手芸品が飾られている居室など、それぞれの馴染みの家具や生活用品とともに安心した暮らしの場となっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	新しく入居された方には灯りや目印等で居室・トイレ等、分かりやすくしている。長く入居されている方達は、現在の必要はないが、手摺を増やし歩行が出来る様工夫している。歩行不安定な方も二人支援にて安全に階段を昇降して頂いている。		